



# ふるえがお



古江小 HP QRコード



令和7年5月19日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

## 運動会に向けて、6年生が頑張っています！

5月23日に運動会を控え、先週から運動会モードになっています。今週の天気予報は、「曇り時々晴れ」か「晴れ時々曇り」で、降水確率も10～30%と低く、23日の本番を順調に迎えることができそうです。6年生は色別活動のリーダーとして1～5年生をひっぱるのはもちろん、応援合戦の企画や準備で休み時間をつかって取り組んでいます。それ以外でも実行委員は、開閉会式の準備や下学年へのお願いなども進めており、とても忙しそうです。運動会の活動を通して、達成感や成就感を得たり、学年・全校の団結力などにつながっていったりすることを期待しています。

1～4年生も実行委員からお願いされた製作物（トロフィー、メダル、スローガン、万国旗など）を学年みんなで協力して作っています。当日に応援テントや本部テント、本部席、フェンスに飾られている作品にも是非ご注目ください。

### 第1回学校運営協議会を終えて

5月8日に第1回学校運営協議会を開催しました。この会は、「学校と地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、学校・家庭・地域が一体となって学校運営の改善並びに児童及び生徒の健全育成に取り組む」ことを目的とし、年3回計画しています。

P T A総会でもお伝えさせていただいたように、今年度の学校経営方針について、運営協議会において説明し、承認していただくこととなっています。校長から学校経営グランドデザインを基に、重点事項や新たな取組などを説明し、承認にいただきました。また、委員の方からは、ワンダふるテストについて、P T A総会の説明では、学校の目的が保護者に十分に伝わっていないこと、宿題をしてこなかった児童に対し、休み時間にやらせることで、こどもたちに負担を強いていることになるのではないかというご意見もいただきました。

ワンダふるテストについては、第1回までのところで、保護者の方に学校のねらいが伝わり、ご理解いただけるような文書を配付させていただきます。宿題への対応については、職員会議等で検討した上で、学年だより等で伝えさせていただきます。

今年度も、地域や保護者の皆様と対話や熟議を重ね、よりよい学校経営に努めてまいります。

<令和7年度古江小学校運営協議会委員の皆様>

No.	役職	お名前	備考
1	会長		古江地区青少年を育てる会会長
2	副会長		古江公民館館長
3	委員		古江地区あったかスクラム実行委員会委員長
4	委員		人権擁護委員、保護司
5	委員		古江小学校P T A会長
6	委員		古江小学校P T A副会長

## 地域の方に支えられて

連休明けに、教員から電話番号と名前を書いた付箋を渡されました。詳しく聞くと、3年生の理科の学習でモンシロチョウの観察があり、そのための青虫を探していたところ、畑にキャベツが植えられているのを見つけたそうです。古江小の教員であること、理科の学習で青虫が必要なことを伝え、葉っぱを2〜3枚分けていただけないかと相談したところ、そういうことならば、と言って2株くださったそうです。自分もお礼を言ったが、校長からもぜひお礼を言ってくれということでの付箋でした。

すぐにお電話をしたところ、わざわざ電話までいただかなくてもと逆に気を遣われて、自分でお役に立てることがあれば、いつでも声をかけてくださいとまでおっしゃっていただきました。

昨年度も校外学習の途中でキャベツを分けていただき、飼育箱にキャベツと青虫を入れて、さなぎからモンシロチョウになっていくところを観察していたのを思い出しました。

本物を観察するのと映像で見ただけでは、こどもたちの学習への興味関心や深まりはずいぶん異なります。その教員によると最近ではキャベツを育てている方も少なく、手に入れるのが年々難しくなっているとの事でした。学校だけでできない学習を地域の方に支えられてできていることに日々感謝しています。

前号でもお伝えしたように、既に水泳学習が始まっています。先日プール管理者の方から「これだけたくさん保護者の方が監視に協力していらっしゃるのですね。いい学校ですね。」とほめていただきました。保護者の方に監視にご協力をいただいていることで、複数グループで指導でき、こどもの「できた」が増やせる環境を整えることにつながり、「楽しかった。」の声が多く聞かれます。

## 「屋根より高い こいのぼり」♪

専科教員が職員室で給食を食べている時に「最近のこどもたちはこいのぼりを見たことがない子もいるみたい。こいのぼりの歌詞の風景のイメージができない。」という声が聞こえてきました。

一昔前まではこの季節に庭先でこいのぼりが泳いでいる姿をいくつも見かけていた風景が、最近ほとんど見ることはできません。連休期間中意識しながら探してみても、1件しか見つけることはできませんでした。全国各地で、八雲の意宇川のようにあげなくなったこいのぼりをまとめて見てもらうスタイルが増えてきているような気がします。

我が家も息子が生まれた時に父が購入し、駐車場に支柱を立てて、天気がいい日は毎朝上げてくれていましたが、小学校入学までという暗黙のルールの下、それ以降は25年以上も納戸にしまわれたままでした。男の子の孫が生まれても、それをあげることができるスペースはなく、そろそろどこかに寄贈をと考えていました。

そんな時に聞いた言葉でしたので、7日に自宅の納戸から取り出し、学校に持ってきて洗濯機で汚れやほこりをきれいにしてから、前庭の国旗掲揚台に吹き流しと3匹のこいのぼりを飾りました。登校路からこいのぼりが見えると声を上げて喜んでいる子もいました。保護者の方からは「去年はなかったですよ。」と声をかけていただき、関心をもってくださいました。

学校運営協議会の際に、音楽室からテラスに出てこいのぼりの歌をクラスで歌っている姿を見ていただき、とてもいいことだと褒めていただきました。

「屋根より高い こいのぼり」はなかなか見ることはできなくなり、「薨の波と雲の波 重なる波の中空を 橘かおる朝風に 高く泳ぐや こいのぼり」という歌詞の風景や香りをイメージすることも少ないどころか、この歌詞すら知らない大人も多くなっています。つくられた当時の背景やこいのぼりにこめられた願いやいわれを伝えることのできる大人でありたいと思います。